

ビデオ「プルトニウム物語」

頼れる仲間プルト君

動力炉・核燃料開発事業団 解説Ⅱ原子力資料情報室

どうねん(画面いっぱい)

こんには、皆さん、僕、プルトニウムのプルト君です。どうかよろしく。

(画面・プルト君の後ろにお化けの絵) なぜ、こんなことをしたかって言いますとねえ、プルトニウムは皆さんにまるでお化けみたいに考えられている、そんなじやないかなーって思うからなんです。皆さんは僕について、何かよく判らない、恐ろしいっていうイメージをもっているんじゃないですか？

僕がまず最初、戦争の道具、原子爆弾に使われてしまったのは、本当に残念なことでした。でも僕だって、戦争は大嫌いです。平和に働くことが、大好きなんです。

ノーベルが発明したダイナマイトだって、危険だけれど人類の役に立っているでしょ？

僕もそうなりたいし、なれるんです。皆さん、今日はプルトニウムの本当の

話を聞いて下さい。

(画面・タイトル「プルトニウム物語」頼れる仲間プルト君)

プルトニウムは、ウランのように鉱山から掘り出すことはできません。原子炉の中でウランが燃える時、生まれてくるんです。

僕を最初に発見して下さったのは、アメリカ原子力委員長を務めたこともあるシーボーグ博士で、1940年のことでした。

プルトニウムという名前は、太陽系の一番外側の惑星、冥王星プルトにちなんでいます。ついでに言えばウランは、その2つ内側の惑星、天王星ウラネスからきています。

皆さんとおつき合いがまだ浅いせい、僕にはどうも悪いうわさがあつて、よく知られていないことが多いようです。えっ、どんなことかって？ それをこれからご紹介しましょう。

まず第一の誤解は、10kgくらいのプルトニウムがあれば、原子爆弾が簡単に作れる、といううわさです。そこで悪者がいて原子爆弾を作ったりしたら大変だ、と言われるようになったのです。一本本に、そんなことができるのでしょうか。

原子爆弾には、純度93%以上のプルトニウムが使われていると言われています。一般の原子炉で使われているプルトニウムでは、純度はせいぜい70%程度ですが、これで原子爆弾を作るのは非常に困難です。

仮にこれを原料に爆弾を作るとしても、それには相当高い技術と、大がかりな設備などが必要である、と言われてい

まして何よりもプルトニウムは、貯蔵中も輸送中もとても厳重に管理され、防護されていますから、これを盗んだり奪ったりするのは、到底不可能なことです。原子炉で使われるプルトニウムで爆弾を作る、というのは、結局現実的ではな

いのです。

僕についての第二の誤解は、僕が猛毒で、しかもガンの原因になるといいます。

プルトニウムは、例えば青酸カリのように飲んだらすぐ死ぬ、というような劇薬ではありません。

僕が毒だと言われるのは、主として僕が出すアルファ線のためです。このアルファ線は、紙一枚でもさえぎることができる放射線ですが、僕は長い期間このアルファ線を出します。

プルトニウムは皮膚に触れた場合でも、そこから吸収されることはありません。

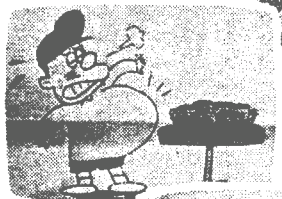
飲み込まれて胃や腸に入った場合もほとんどが排泄されて体の外に出てしま

います。しかし傷口などから血液の中に入った場合は、簡単に体の外には出せません。この場合プルトニウムはまずリンパ節に集まり、その後、骨や肝臓に移りアルファ線を出し続けます。

また吸い込まれた場合、一部は吐く息と一緒に吐き出されますが、場合によっては肺に入り込んだものが骨、肝臓などに移り、長い間にわたってアルファ線

を出し続けます。

プルトニウムは、血液の中に入れないこと、それから吸い込まないことが、最も大切です。人間の体の中に入った場合の影響については、これまでにプルトニウムが原因でガンになったと断定された例がないため、動物実験のデータを基に推定されています。



その動物実験の結果からは、プルトニウムが血液や肺の中に入った場合、その量や化学的形態によっては、何年も何十年もたつてからの発ガンの可能性が指摘されています。しかし、ラジウムなどの取り扱いで被曝した例でガンが発生した

報告はありますが、プルトニウムが原因でガンになったと断定された例は全くありません。

僕の取り扱いについては厳しい基準が作られていて、これに基づききちんとした管理が行われているんです。ですから僕が、人体に影響を与えることは考えられません。

いま悪者たちが、僕を貯水池に投げ込んだとしてみましよう。僕は水に溶けにくいばかりが重いので、ほとんど水底に沈んでしまいます。

万一、水と一緒に飲み込まれてしまっても、胃や腸からはほとんど吸収されず体の外に出ています。

でも僕の危険性だけが強調され、脅しの手段に使われることがあります。なぜ僕を脅しの手段に使うのでしょうか？

それは一般に僕についての正しい知識が不足していて、原子爆弾やら、放射能やら、恐しげなイメージだけが先に立ってしまふからなんです。それが作り物のお化けのようなものだと思えば、だれも僕を脅しの道具に使ったりはしなくなるでしょう。

一体僕は、人間の素晴らしい知恵でコ

ントロールできないほど、危険なものなのでしようか。

プルトニウムは今、開発が進められている新しい型の原子炉で使うのが一番効果が良いのです。この新型原子炉では天然のウラン資源を今までの何十倍にも生かして使えるんです。

このことは、人間のエネルギーの未来を明るい希望に満ちたものにしてくれます。

僕はそんな形で、皆さんのお役に立つのです。

動燃では高速増殖炉、新型転換炉、そしてプルトニウムの研究と開発に、すでに25年以上もの安全な取り扱いの歴史を誇っています。

皆さん、僕はお化けではありません。僕の本当の姿をよく見て下さい。例えば、木星探査衛星ボイジャーにだって、僕は使われています。

皆さんが平和な温かい心でつき合って下されば、僕は決して恐ろしいものでも危険なものでもありません。

これからずっと長い間にわたって、戻ることのないエネルギーをお送りする、頼りになる仲間なのです。

企画Ⅱ動力炉・核燃料開発事業団
製作Ⅱ(株)三和クリーン

【解説】

原子力資料情報室

1. プルトニウムは、原子爆弾開発のために作られた人工元素。
2. 原子炉級のプルトニウムでも核爆発を起こせることは、1962年の合州国での実験で確かめられている。
3. 長崎原爆と同種の簡単な装置で、最低でも1〜数キロトンの爆発を起こす、という報告がある。
4. 現実的な方法のひとつです。
5. 長い期間、とは言葉のアヤ、ほぼ永久です。半減期でも2万4千年。
6. 放射性物質に触れたり飲むなど論外！一部は確実に体に残る。プルトニウムは毒性が強いので、その一部でも大問題。
7. この表現は不適、吸い込まれたプルトニウムのかんりの部分は肺に達する。
8. 犬を使ったもので、数百日から数年で100%の死亡、という実験報告がある。
9. プルトニウムの毒性は、ラジウムよ

- りはるかに強いことが判っている。またプルトニウムが原因と「断定」された例はないが、疑われている例は大変多く、動物実験などでもプルトニウムの発ガン性ははっきりしている。
 10. 水に溶けにくいのは酸化プルトニウムだが、これは粉末状のため、一様に底に沈んでいくとは考えられない。
 11. 一部は確実に吸収される。ごく一部であっても、プルトニウムの毒性は大きいので問題。経口摂取の場合でも、プルトニウムはほかの放射性物質、例えばセシウムより何十倍も危険である。
 12. 最初に投入したプルトニウムが倍増するのにかかる時間は、90年！にもなると言われ、原子炉の寿命の3倍以上。ほとんど意味はない。
 13. その間に色々なトラブルを起こしているし、25年間やっても、全く実用化のめどは立たないのだ。
 14. プルトニウムを、危険なものと思わないで吸うのが一番怖い。
 15. 「尿まじることのない」エネルギーなど、あり得ない。大うそ。
- 以上、ざっと見ただけで15カ所の誤りがある。

アメリカ・エネルギー省長官

「プルト君」ビデオで

動燃理事長に抗議

ヘーゼル・オリアリー
(エネルギー省長官)

動力炉・核燃料開発事業団
理事長 石渡鷹雄殿

1994年2月7日

このところアメリカでは、貴動力炉・核燃料開発事業団が作成された「プルトニウム物語」頼れる仲間「プルト君」ビデオに関して、様々な記事が無数に報道されています。

「プルト君」は、子供がプルトニウム入りの水を飲んでも害を与えないとしており、プルトニウムの危険性を過小評価しています。公衆衛生上重大な問題を、このような方法で展開するのは、誤解を招きます。ご存じのようにプルトニウムは極めて危険で、極微量でも摂取したり、吸入したりすると、危険です。また原子炉級プルトニウムからも、核兵器を作る事ができます。

貴事業団は、原子炉から取り出されるプルトニウムの安全保障、及び環境への放出を厳しく管理するために、様々な手段を取られていくと思えます。それこそ宣伝すべきで、一般の人々が、プルトニウムの危険性について誤った認識をもつような内容の広告をするのは、止めるべきです。ぜひとも「プルト君」のビデオを回収して下さい。お願い申し上げます。

科学技術庁長官

江田五月様

棚橋 一晃
書記長
プルトニウム・フリー・フューチャー

1994年2月15日

お元気で何よりです。国民に原子力開発について意見を聞かれること、素晴らしいですね。歴史的ですよ。

アメリカでの平和・環境保護運動の真つ只中から、私のささやかな意見を差し上げます。お手元に届くことを心から期待しています。

地球規模エネルギー開発の一環としての原子力政策を提案します。

環境保護に最適な太陽熱・風力などの再生可能な自然資源を利用する、無汚染の新エネルギー技術は、大量開発・実施段階に近づいています。これを国の主要産業とし、輸出技術の中心とすることを、最優先の国策とすべきです。

原子力委員会を改組し、原子力推進、環境保護、中立の専門家それぞれ同数の委員によって構成すべきです。原子力委員会の上位に、閣僚を中心メンバーとする「地球規模エネルギー開発委員会」を設け、エネルギー関係国策の企画・提案・実施の最高機関とすることを提案します。

江田五月 科学技術庁長官様

原子力の進め方についての

基本的考え方

大築 肇
(スタジオ・リーフ代表)

『人間家族』編集人
1994年2月15日

原子力の利用は、最初のウラニウムを採掘する労働者から、最後の原発で働く労働者に至るまで、量の多少にかかわらず被爆という人道的に許すことのできない犠牲を伴います。また使用後の放射線廃棄物の保管や、廃炉を解体するために莫大な費用がかかりますが、それらは計上されていません。さらに「二酸化炭素を出さないクリーンなエネルギー源」でもありません。原発を稼働させるためには、多大な石油エネルギーが必要です。また国際的に見ても、先進国の原発建設計画は減少方向にあり、持続可能な代替エネルギー開発に向けてられています。また感性の鋭い若者たちの原発離れも進んでおり、優秀な人材は将来的に明るい未来の代替エネルギー開発の方を選ばずでしょう。55年体制が終わった今「ハイテク・クレージー社会」、原発推進から名譽ある撤退を強く要望します。最後に私たち人間は、自然や地球を支配するのではなく、それらに生かされていることを、改めて確認したいと思えます。

「母なる地球と世界の平和を祈るためのお断食」

聖地・ビッグマウンテンを守るために 祈りと癒しの太鼓を打ち鳴らします

レインボー・
ムーブメント
弥勒エイサー隊
(Produced by 喜納昌吉)

先日、日本山妙法寺の安田純法尼から「アメリカ・インディアン」の聖地・ビッグマウンテンが危機にひんしている。そこには日本の企業が関与し、彼らの生命を脅かしている。このことを多くの人々に伝え、母なる地球を守らなければいけない」と、知らされました。私たちの生活のために、同じ地球人であり、魂の同胞であるインディアンの生活を犠牲にしている。もしそれが事実だとしたら、我が家の暖をとるために隣家を解体するのと同じぐらい暴力的な、人間として恥ずべき行為ではないでしょうか。だからといって、これは一企業を相手に抗議のノロシを上げて、解決できることではありません。問題の根は深く、解決の糸口はたやすくありません。しかし、黙って見過ごしては、何も始まらないのです。

まず生命の本質を、理解してほしいのです。自分たちの聖地が切り崩され、生活水が汚染されているインディアンの人々も、強制的移住政策をとるアメリカ政府も。そこで採掘した石炭を輸入している企業も。その恩恵に浴している私たちも。みんな同じ一つの有機的な生命のつながりの中で、お互いの身体を、心を、魂を傷つけあっているのです。母なる大地は、地震や洪水によって、警告を発しています。「もうこれ以上、あなた方自身を傷つけ合うのは止めなさい」と。

私たちは祈ります。何よりも、インディアンの方々の生命の安全と、聖地の保護を最優先した政策が実施されますように。そして、三菱商事をはじめ日本の企業の方々が、一刻も早く化石エネルギーに替わる「宇宙エネルギー」の存在に目覚め、全企業努力を集中して研究開発をしていただけますように。心を込めて、癒しの太鼓とエイサー踊りを奉納させていただきます。

1994年1月19日 弥勒エイサー隊 有志 合掌

*お断食の最中に街頭で配られたチラシ。

*「弥勒エイサー隊」：沖縄のアーティスト・喜納昌吉のムーブメントに共鳴する同志が集まって発足。ダイナミックで力強い生命エネルギーが躍動する太鼓の響きは、踊り手自身を浄化し、その波動は母なる大地と共に鳴り、宇宙の全生命を浄化していく。昨年8月沖縄で行われた「ニライカナイ祭り」では、アメリカ・インディアンの運動の指導者デニス・パンクス氏も、「インディアン・ドラムと同じスピリット、同じ波動を感じると絶賛。現在大半のメンバーは、喜納昌吉のインド公演に同行中。」
*喜納昌吉が提唱する「レンボームムーブメント」と銘付った祭りのムーブメントでは、アメリカ・インディアン運動をはじめ、環境や人権、伝統文化などを研究する様々な問題意識をもった人々とのネットワークを呼び掛けています。また一緒にコンサートを企画したい賛同者、出演者も募集中。
*レインボームーブメント実行委員会(東京) / 弥勒エイサー隊 連絡先 ☎03-3396-7250 代表：堀田

プルトニウムのない未来を(20)

日本ではプルトニウムが可愛く変身 ビデオによれば飲んでも安全

1月20日付『サンフランシスコ・クロニカル』紙

訳|| カキ・パーシモン

東京発
プルト君に会おう。原発の燃料用として30トンのプルトニウムを輸入する計画を憂慮する動きに対して、日本原子力公団は、アニメ化した、丸顔、ばら色の頬のプルト君をその回答として用意した。

「動力炉・核燃料開発事業団によって作られた、宣伝用ビデオの主人公プルト君に、すべての人がだまされているわけではない」と、日本の原子力問題の消息筋は伝えている。

「プルトニウム物語：頼りになるプルト君」と題したビデオの配布に反対するキャンペーンを行うことを、反原発グループは昨日、明らかにした。同グループは、危険ではないかのように偽っている無責任さを非難している。

公団側とプルト君は、危険性は大げさであると主張している。「はい、皆さん、僕は死神ではありません」

せん。もし皆さんが平和と温かい心で僕を取り扱うなら、僕は決して危険でも恐ろしくもないのです」と、彼は言う。

「僕が最初、核兵器となって戦争の道具として使われたことは、本当に悪いことです。でも僕は戦争が本当に嫌いです。僕がしたいのは、平和に働くことです」

1945年、第2次世界大戦の末期、日本の降伏を早めるため、原子爆弾が広島と長崎に落とされた。およそ21万人が死亡した。

小粒で元気なプルト君は、小さな子供に似ている。彼は可愛い赤い長靴にアンテナのついた緑色のヘルメットをかぶり、その正面にはプルトニウムの化学記号Puが書かれている。

ビデオの中で、プルトニウム入りのソイダを飲んでいる若者とプルト君が握手するシーンがある。「もし、プルトニウムを摂取しても、そのほとんどは体内を通過するだけで害はない」とナレーション

ンが入る。

「このビデオの中で、最も根本的なウソはプルトニウムが危険ではない、という考え方だ」と、かつて核化学者で現在、原子力資料情報室室長の高木仁三郎氏は語る。

「もちろん、プルトニウムを飲むことは、非常に危険なことである」と、高木氏は言う。「言葉を換えて言えば、このビデオの中で言っていることは、完全に非人道的なことだ」

強い放射線を発する銀色の金属は骨髄に吸収されるので、人体にとって猛毒である。0.1ミリグラムの吸入によって肺癌を引き起こす。

このビデオは昨年春、福井県県庁に配布され、高校生までの学童を対象にしている、と公団側は弁明している。

日本のプルトニウム計画は、国内と国外の両方から批判の攻撃にあっている。昨年始め、1.7トンのプルトニウムが、



フランスから日本へ海上輸送されること
に対して、数カ国の国々は、領海内を通
過しないように閉め出しを行っている。

(以上)

人間家族編集室様

『人間家族』をいつもどうもありがとう。
僕は、サンフランシスコ湾から2000

如ほど北上した所にある、ユーカイアと
いう町に住んでいます。北緯39度、日本
だと岩手県くらいの緯度ですが、1月末
でヤナギが色吹き始め、気候は関西か四
国くらいの感じですよ。

昨年夏、宮田雪さんたちが訪ねてくれ
て、地元のポモ・インディアンの人たち
と、モホークの人たちと一緒に「ホビの
予言」上映会を開き、90人ほどの人が来
てくれました。11月には、ヒロシマの原
爆被爆者の鈴木善助さんを囲んで、10
6人の人が集まりました。ユーカイアは
人口1万5千人の小さな町なので、関心
はとても高いように思いました。

この『サンフランシスコ・クロニカル』
紙の記事は、ぼくが働いている造園業の
親友が、「昨日の新聞の中で一番興味の
あった記事だ」といって見せてくれたも
のです。

彼は地元の短大で、歴史と政治学を教
えている教授でもあり「大多数のアメリ
カ人はアルトニウムが危険であると考え
ている、と言っているだろうか」と言っ
ています。

この新聞は、北カリフォルニア一帯の

大新聞の一つです。隣人の大学の英語の
先生にもこの記事を見せたところ、彼女
は、同じ記事が違う新聞に載っていたの
を読んだと言っていました。

最近、1950年代から60年代にかけ
てアメリカ政府がアルトニウムやウラニ
ウムを人体に投与して、どんな影響がで
るか——という実験をしていたことが明
るみになっています。

今は鯨(グレイ・ホエール)が、カリ
フォルニア半島で出産するために南下す
る季節で、1月16日、十数頭のグレイ・
ホエールが潮を吹いているのが、海岸か
ら見えました。

1月31日 カキ・パーシモン

*この記事は、日本の英字新聞が大きく取り上げ
海外に流れ「ニューヨーク・タイムズ」ほかの、
アメリカの多くの新聞に掲載されたようです。日
本のマスコミは、何も伝えません……

PF&と「紅の蛇」は2月23日、パークレー市
議会の「アルトニウムのない未来を目指す」決議
案採択1周年を記念して、「第1回グロバル市民
会議」を計画していますが、これに合わせて日
本領事館前で、アルトニウム現場のストリート・パフ
オーマンズなどを企画中。

また、このビデオの内容を次号で掲載します。
(編集室)

つづきの村から その四十二

もうひとつの力

十二月というのは、どこでもあわただしいものだ。僕た
ち八百屋もまた、ご多分にもれず忙しい。「やっぱ、景気
悪いで」と、町内の商店のおっさん。「昔は親類縁者総出
で仕事をこなしたもんや。しゃあけど……」と、つづく。

しかし、ありがたいことに僕らの八百屋は、何年たつて
も目の回るほどに忙しい。今のスタッフはこの暮れの仕事を
を何度か経験しているの、「もうすぐ来るな」という感
じが判っていて、準備体操ならぬ、この時期への入り方を
体得しているのである。

仕事の量が多くなつて忙しいとか、年末の特別品がある



から忙しい、あるいは配達がいつもよりたくさんあるから
忙しいという、何と言うか現象面での忙しさはもちろんあ
るのだが、この八百屋が迎える十二月というのは、また違
った意味の忙しさがあるのだ。

それは忙しいという言葉の意味を超えた、一種独特
なものなのである。一月から十一月までは、この十二月の
準備期間とも言おうか、集大成のようなものなのだ。忙
しいという感覚を超える何かというのは、とても密度の濃
い仕事の運びなのである。各スタッフも異常な風に盛り上
がり、普段味わえない共有意識、仲間である一体感を感じ
させるのである。

高橋 秀夫

(奈良市 八百屋ろ)

カットIIけたに麻木子

(京都市)

昔、小さい時分、野原や雑木林の一角で、「〇×同盟」
とか「何とか団」みたいな仲良しがあつて、秘密の基地を
作ったりして遊んだ。「だれにも言うなよ、約束だ」なん
てドキドキ、ワクワクしてやったよね。あんな風な感覚に
なるのだ。八百屋に泊まり込んでしまつたり、普段しゃべ
らない自分のことを口にしたりと、妙に盛り上がるのだ。
祭りのノリのようなのであり、短期間の共同体のようなもの。
こんな風に十二月を迎えている仲間の八百屋は、たくさ
んあると思う。バタバタと忙しいのだけど、なぜか楽しい